2階北男子トイレ。トイレ内のベンチは休憩をしたり、荷物を置いたりするなどして利用されている。手洗い場は自動水栓を採用した。

学校トイレ事例 01 新築

福岡県香春町

香春町立香春思永館

すべての人にやさしい施設を 9年制の義務教育学校が誕生

子どもたちの成長を実感できる学校トイレ

香春町立香春思永館は、町立の小学校4校と中学校2校を統合し、2021年4月に開校した9年制の義務教育学校です。

全国的に少子化が進む中、香春町も例外ではありませんでした。児童・生徒数の減少が著しく、今後、複式学級の可能性もあったといいます。

また、築40年を超える校舎の老朽化といった問題もありました。香春町では子どもたちにとっての最適な教育環境づくりを模索した結果、施設一体型の香春町立香春思永館を開校。香春町立香春思永館では、9年間を通じた教育課程の編成、および指導計画を作成し、系統的な教育を実施していくことを目標に掲げています。

1年生から9年生まで、体格や個性も異なる児童・生徒たちが9年間学びの期間を共に過ごす学校施設では、子どもたち同士の交流が促進されるよう、さまざまな工夫が見られます。例えばトイレの場合、トイレにベンチを配置したり、アイランド型の手洗いコーナーを設けたりと「楽しい雰囲気になるように心がけた」と話すのは、設計を担当した梓設計の篠原綾さん。

「トイレは授業の合間にほっと一息つけたり、違うクラスや学年の子とお話しできたりと、交流の面でも重要な場所です」

9年間同じ施設で学ぶ子どもたちが成長を実感できるよう、内装にも変化を持たせました。香春町立香春思永館では男子トイレは水色、女子トイレは黄色をアクセントカラーにしています。まだ学校生活に慣れていない低学年のトイレでは、淡い色味や鮮やかな差し色を用いて軽快な雰囲気に。そして中学年、高学年と進級するにつれて、色彩に落ち着きを持たせたり、木目素材を用いたりと、工夫が施されています。木目素材は、新しい学校を考える際に実施されたワークショップで「香春町は自然が豊かなところ。トイレ内にも木のぬくもりがあるとうれしい」という、当時の中学生生徒の意見が採用されました。

また、各階ごとに洗面台の鏡と手洗いの高さを変えるなど、子どもたちの成長に配慮した設計が行われています。

学校内ではその他にも毎朝の通学時に、児童・生徒・教職員が出会う「ふれあいモール」や、教室・階段・トイレ前につくった「談話スペース」「展示コーナー」など、児童・生徒間のコミュニケーションが生まれる仕組みが随所に見られます。中庭を囲むように配置された教室は、学年が上がることに見える景色が少しずつ変わります。自身の成長を感じられるとともに、学校施設に飽きないよう設計されているのです。

コロナ禍の影響を受けて自動水栓に仕様を変更

今回の学校再編に当たり、香春町立香春思永館では、すべての手洗い場に自動水栓を採用しています。ところが、設計当初は手動式の水栓金具を検討していたと香春町教育委員会教育課学校再編準備室（取材時）の椎葉（しいば）隆博さんは話します。

「予算の兼ね合いで手動式の水栓金具にしていた経緯があったのですが、建設途中に新型コロナウイルスの問題が深刻化しました。『本当に必要なものは何か』と考えた結果、自動水栓に変更したのです」

1階北トイレ入り口。トイレ内は性別によるイメージにとらわれにくい水色（男子）、黄色（女子）でデザインしているが、入り口は視認性に配慮して明瞭な色使いに。原色を用いるのではなく、少し彩度を落とすことで落ち着いた印象に仕上げた。

学校生活にまだ慣れていない低学年が使用する1階北男子トイレは、トイレ内を淡い色でまとめ、天井までつながる壁面など楽しい雰囲気を演出した。

1階北女子トイレ。さまざまな利用者を想定して、ブース内には手すりを備えた。

子どもたちの自主的な衛生習慣づくりのため、低学年教室には手洗いを設置。

手洗いコーナーは、低学年の教室内にも設けられています。まだ幼い子どもたちが運動場から戻ってきた際や、給食前の手洗いなどを同じ教室内でスムーズにできるよう配慮しました。教室内で手洗いを行うことで先生の目も行き届きやすく、トイレ周辺の手洗い場の混雑緩和にもつながっています。

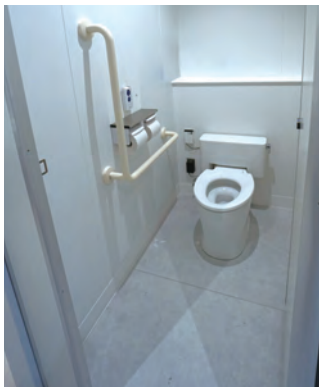
統合前の学校では、手動式の水栓金具にネット入りの固形石けんをつるす形で設置していました。しかし、感染症予防や非接触の観点から、新しい学校では水栓の自動化とともに、液体石けんを配置するようにしています。これまでは、放課後に学校の先生がすべての教室の入り口や水栓の消毒を行っていましたが、自動水栓を採用したことにより、その時間が大幅に短縮されました。

バリアフリートイレの必要性を再認識

校舎棟の各階と体育館には、オストメイト対応設備や、大型ベッドを備えたバリアフリートイレが設置されています。

バリアフリートイレについては「すべての人にやさしい建物に」という思いから、設計当初から設置を計画していました。また、新し

（右上）1階北女子トイレ。低学年女子が使用するトイレは、アクセントカラーに鮮やかな黄色を採用するとともに、アイランド型の手洗いコーナーで楽しさを演出した。
（左上）2階北男子トイレ。1階低学年男子トイレと同様に、中学年用のトイレ内装も水色で着色しているが、色味に深みを持たせることで成長を感じられる内装に仕上げた。
（右下）3階北女子トイレ。高学年が使用するトイレでは、イエローベースに木目の扉を取り入れ、さらに落ち着いたデザインに。
（左下）正門からの動線に位置する「ふれあいモール」では、通学時に児童・生徒・教職員が毎朝顔を合わせることで、交流が促進される役割を担っている。



2階南男子トイレ。座った状態でも操作が可能なリモコン便器洗浄ユニットを設置した。

2階北女子トイレ。1階の低学年が使用する女子トイレと同様に黄色をアクセントカラーにしているが、モザイクタイルの種類を変更することで違いを表現している。

（上）2階南男子トイレ。小便器下の床には汚垂れ石を、手前の小便器には手すりを設置した。
（左）2階南バリアフリートイレ。バリアフリートイレは校舎棟の1・2・3階と体育館に設置されている。

い学校を考えるに当たって保護者向けに開催されたワークショップでも、バリアフリートイレに対する要望があったといいます。

「ある保護者の方が、ご自身のお子さんがオストメイトに対応した設備が必要だとおっしゃっていました。もともと設置する想定でしたが、必要性を改めて感じましたね」（篠原さん）

バリアフリートイレは温水洗浄便座を採用。学校ではこの他にも、災害時の避難所になることを想定し、体育館に更衣室やシャワー室も設置しています。シャワー室は、けがや嘔吐した際の利用を考慮して保健室にも備えられています。

洋式化により掃除がしやすくなった

新規開校を機に、便器もすべて洋式化しました。しかし、統合前の学校のトイレがすべて和式であったため、当初は各トイレに一つずつ、和式便器を残してほしいという要望があったといいます。

「先生からそのようなご要望はありました。一方で、家庭のトイレはほぼ100％洋式です。和式を残したところで、そのトイレが使われない可能性があると考えました」（椎葉さん）

話し合いの結果、最終的にはすべて洋式便器を採用することになりました。学校が始まった現在、和式便器がないことに対する不満の声は一切ないといいます。また、和式便器の際に深刻だった、便器の外に付着した便や尿の汚れの問題もなくなり、現場からは「全洋式でよかった」という声が多いそうです。

新校舎では、床が乾式シートになり、掃除の方法も変更しました。統合前は、バケツで水を流し、たわしでこすって掃除を行っていました。

「乾式化で、今はビニール手袋と、トイレに流せる使い捨ての掃除シートを使用して掃除を行っています。床も使い捨てのシートを用いて、雑巾を使用しないようにしました」

そう話すのは、種具（たねぐ）朋一郎副校長。新しい掃除方法は簡単に行える上に、衛生的であることから、児童・生徒にも好評といいます。

2階南男子トイレ。小便器は床の清掃性に優れた低リップタイプの壁掛自動洗浄小便器を採用。

閉鎖的な空間から一転開放的な空間へ

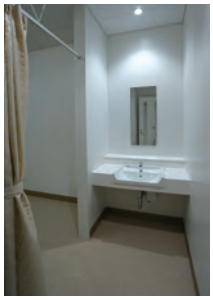
こうして生まれた香春町立香春思永館。今後は、「教育のまち香春」をPRする拠点としても展開していく予定です。

「コロナ禍による仕様変更など紆余曲折がありましたが、最終的には子どもたちにとって何が最適かを考え、町全体が同じ方向を向いたことで、いい学校ができたと思っています」（椎葉さん）

「これまでのトイレは汚いし、におう、いわば閉鎖的な空間でしたが、新しいトイレはきれいで明るく、子どもたち同士の交流も生まれるという、付加価値を持ったトイレになりました。長らく教員生活を続けていましたが、新しい発見でしたね」（種具副校長）

3階南女子トイレ。2・3階のトイレはブースの間仕切り壁を天井まで立ち上げ、防犯対策が図られている。

3階北女子トイレ。擬音装置を設置。

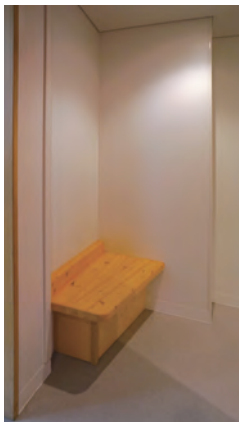


（右）体育館に設置されている更衣室内の手洗い。（左）更衣室内には災害時の使用も考慮してシャワーブースも設けられている。

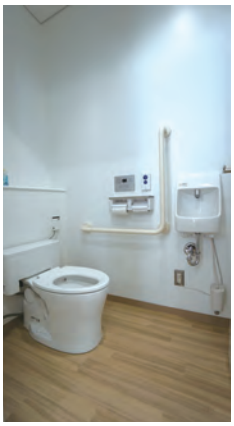
体育館に設置されているバリアフリートイレ。災害時や地域開放時などのさまざまな利用を想定し、オストメイト対応設備やベビーチェアの他、折りたたみ式の大型ベッドも設置。

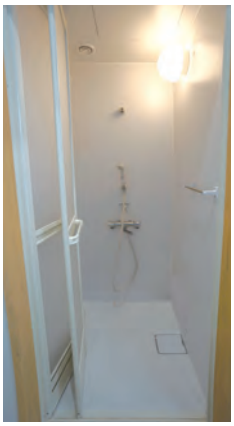
3階北女子トイレ。便器は掃除口が設けられたタイプを採用。

（上）1階低学年教室内に設置されている手洗いコーナー（右奥）。トイレ同様、こちらも自動水栓を採用した。
（右）使用頻度の高い廊下の手洗い場にも自動水栓を採用した。



3階北女子トイレ内ベンチ。ワークショップ時に「いろんなところにベンチがほしい」という意見が挙がった。

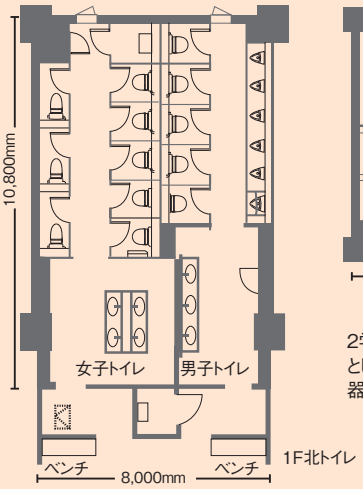


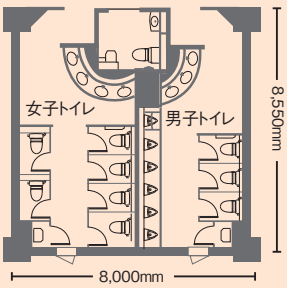


（右）保健室には、けがをした際や嘔吐時などの利用も考えてシャワーブースも備えた。　（左）保健室トイレ。二つある保健室のどちらからもアクセスすることができる。体調が悪いときや、けがをしている場合を考慮し、手すりや手洗いを設けている。

香春町立香春思永館 DATA

名　　称：香春町立香春思永館
所　在　地：福岡県田川郡香春町大字高野1431
児童・生徒数：730名（2022年4月）
施　　主：香春町
設計・監理：梓設計
施　　工：共和建設工業（建築／校舎棟）、江藤（建築／体育館・学童棟）、きたせつ・ワコー電設特定建設工事共同企業体（電気）、永和・英特定建設工事共同企業体（空調）、石見・香英特定建設工事共同企業体（衛生）、松井設備（浄化槽）
竣 工 年 月：2021年3月





2・3F南トイレ

2学年で使用するトイレはゆったりとしたスペースを取り、便器などの器具数も充実させた。